

得意を職業に

校長 武井 正明

25日、先日話題にした、玉置浩二のライブに行ってきた。

もう何回目になるだろう。学生時代からずっとだから、40年以上になる。

今回は前から3列目というとても近い席だった。玉置浩二は六十代後半となった今も、圧倒的な歌唱力で、他の追随を許さない。とにかくうまい。毎回溜息しか出ない。

このところ安全地帯を離れて、あの尾崎豊を発掘した音楽プロデューサーの須藤晃の息子、トオミヨウがサポートに入って「故郷楽団」を結成、今年で10周年になる。

現在は、総ての公演が売り切れだが、その昔、玉置浩二にも苦しい時代があった。

2010年のツアー中に観客と悶着を起こし、途中で歌うのをやめてしまった。当然コンサートは中止。当時のバンドメンバーが愛想をつかして脱退してしまった。玉置浩二の評判は、あっという間に地に落ちた。

その翌年の新潟県民会館は悲惨だった。

2階にはカーテンが引かれ、1階の客席も半分弱しか埋まらなかった。ずっと安全地帯や玉置浩二を聴いてきて、こんなことは初めて。世間は厳しく、正直だ。ここまで減ってしまうのかと、その光景が俄かに信じられなかった。

真実はわからない。彼は言い訳を一切しなかった。

その時観た玉置浩二は、鬼気迫るものがあった。

観客の数など全く関係なく、最後まで全力で歌唱、演奏しているのが伝わってきた。

「俺は音楽だけは、歌だけは絶対に妥協しない!! ブレない!!」私の眼にはそう映った。

すごいなあ。俺も負けていられないな…。そう思って会場を後にする私年代のファンは、少なくないのではなかろうか。

そして思う。

音楽を生業にできるって最高、羨ましいなど。今回キーボード、ギター、パーカッション、バス、ドラムス、サクソ・フルート、バイオリン、ビオラ総勢10人が観客を魅了した。自分が得意なことで人が喜んでくれる…こんな素敵な職業はない。

吉中の吹奏楽部の人たちからも、将来プロの演奏者が輩出されたら楽しいだろうなあ。

君たちの演奏も中学の段階で、聴く人たちの魂をあれだけ揺さぶるのだから、音楽を職業にする人が出てきても、決して不思議なことではないと思う。

そんな卒業生、出てきたら楽しいなあ…。

そしたら真っ先に聴きに行きたいな。いや、必ず行く。